

# 平成30年度事業計画書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

## I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金として再出発して、本年度は7年目になります。また、本年度は、当法人を設立した初代理事長・佐藤千壽生誕100年の記念の年に当たります。本年度は、当法人の設立の原点に立ち返りながら、「美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する」という目的の達成のために事業を行います。

また、美術工芸品の新たな魅力の発信を行うとともに、地域の方々と連携して、地域文化の発展にも寄与する事業を積極的に行います。

## II. 事業毎の計画

### 1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

#### (1) 石洞美術館

##### a. 展示計画

石洞美術館では、原則として年3回の企画展を実施していますが、本年度は、3回の企画展に加え、公募展である第47回伝統工芸日本金工展を開催します。

#### 「第47回伝統工芸日本金工展」

公益社団法人日本工芸会との共催の展覧会で、平成24年度より、石洞美術館で隔年開催しており、本年度で47回を数えます。弥生時代に始まる我が国の金属工芸は、その技術が連綿と伝えられて今日に至っています。しかし、伝統を保持するということは、時代の要請に応えながら、新しい試みをしていくことでもあります。この伝統工芸日本金工展は、金工作家の新しい試みの場でもあり、金工の魅力を見直す機会になっています。この展覧会を通して、現代の金工の魅力に触れて頂きたいと思います。

#### 「館蔵書画展（仮称）」

石洞美術館の所蔵品の主体は工芸作品であるため、これまでは「駒井哲郎

銅版画展」を除いて書画の展覧会を開催してきませんでした。しかしながら、石洞美術館は、駒井哲郎銅版画を除いても、およそ 200 件の書画を所蔵しています。佐藤千壽の眼を通して集められたこれらの作品のうち、東アジアの作品（奈良時代から現代まで）は、文人趣味的な風雅で清楚な作品が多いことが特徴です。一方で、インドの細密画は、素朴でありながら、華麗な色彩とユーモラスな描画のものが多くあることが特徴です。これらの作品は、いずれも華美に流れず、滋味があり、一つの纏まりを持っています。

本展では、館蔵の書画の中からおよそ 70 件を選び、一人の収集家の眼を通して集められた書画の魅力を味わって頂きたいと思います。

### 「イスラーム陶器展（仮称）」

7世紀以降、西アジア、中央アジア、エジプト、北アフリカを中心とするイスラーム圏で焼かれた施釉陶器であるイスラーム陶器は、中国の陶磁器にも比肩する程の規模と内容を持った陶器群です。

本展では、館蔵のおよそ 40 点のイスラーム陶器により、9～10世紀頃のアッバース朝から17世紀のサファヴィー朝までのイスラーム陶器の変遷を概観するとともに、イスラーム教徒により伝えられスペインで花開いたイスパノ・モレスク（スペインのラスター彩陶器）によって、他地域へのイスラーム陶器の影響や、その展開も御覧頂きたいと思います。

また、イスラーム陶器制作の中心地である西アジアで作られた、さまざまな工芸作品を同時に展示し、西アジアで育まれた豊かな工芸文化の一端に触れて頂きたいと思います。

前回のイスラーム陶器展から 10 年となり、今回は図録を作成したいと思います。

### 「十二支展（仮称）」

十二支といえば「子」「丑」「寅」という言葉とともに、それぞれの動物が頭に浮かびます。私達にとって身近な存在である十二支は、中国で生まれました。その歴史は大変古く、殷時代にまで遡ります。日付、年月、時刻などの順序を表す数詞として用いられていた十二支は、後に、それぞれに動物が当てはめられるようになります。後漢時代（25～220年）に王充が著した『論衡』の「物勢篇」には、十二支と動物の関係が記されています。十二支が長きにわたり人々に親しまれてきたのは、動物のイメージが与えられたことが大変大きいと思われれます。

本展では、十二支の動物たちをテーマとして、館蔵品から約 90 件を展示致します。展覧会の開催が1月からということもあり、十二支を切り口として、工芸品をより身近なものとして楽しんで頂きたいと思います。

「第47回伝統工芸日本金工展」	4月28日（土）～6月17日（日）
「館蔵書画展」（仮称）	6月30日（土）～8月5日（日）
「イスラーム陶器展」（仮称）	9月1日（土）～12月16日（日）
「十二支展」（仮称）	1月12日（土）～4月7日（日）

b. 地域との連携活動

足立区内の他の4施設と協力して、石洞美術館の展示室でコンサートを開催し、美術館の新たな魅力を発信します。

c. 広報活動

昨年度に引き続き「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

d. 博物館実習

学芸員資格取得に必要な館園実習を行い、2名を限度に実習生を受け入れます。

e. 資料の収集

魅力ある展示を行っていくため、資料収集方針にしたがって、今年度も新たな資料の収集を行います。

## 2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

### (1) 助成事業

本年度は下記の研究に対し助成を行います。

- a. ハーバード大学東アジア言語文化学科留学生への研究助成
- b. 野口明日香 在米五十嵐派漆工作品の調査
- c. 中尾優衣 「表派」に関する調査研究
- d. 秋本貴子 国宝・薬師寺吉祥天像に使用されている日本古来の麻布の研究

### (2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

若手金工作家奨励のための淡水翁賞は、本年度で35回目を迎えます。

第35回淡水翁賞の募集は9月頃開始、12月25日をもって締め切りとし、選考の上、3月に授賞式を行います。